

# 平成 29 年度 社会福祉法人 ふ た ば 園 事 業 報 告

平成 29 年度の基本計画に係る概況について〈法人統轄事項〉

(1) 継続事業について〈各事業拠点別 事業報告 参照〉

(2) 新規事業について

- ・ 6 月 1 日より旧増山邸にて、居宅介護支援事業 ヘルパーステーションみらいを開設運営した。
- ・ 8 月に新規事業としてグループホーム、地域活動支援センター、現在土原にあるほっとわーく、ヘルパーステーションみらいの事務所移転を目的に土原 536 番地の旧前田眼科ビル（土地含む）を購入した。

(3) 経営実施状況について

A) 準職員を採用

- ・平成 29 年度に新たに整備した準職員枠について 1 名新規採用、1 2 名を任用替した。

B) 人材確保について

- ・平成 29 年度の入退職者は以下のとおりとなっている。

## 入職 (33 名)

	正職員	準職員	特別契約職員	パート職員	合計
からふる			5	4	9
えーる				1	1
なないろ			1	1	2
ケアホーム			1	1	2
さんみ苑	1		3	5	9
みらい		1	3	0	4
デイサービス			0	4	4
キーパー				2	2
事務 (本部)				1	1
合計	1	1	13	19	34

## 退職 (26 名)

	正職員	準職員	特別契約職員	パート職員	合計
からふる		1		2	3
のびっこ				1	1
えーる	1			1	2

	正職員	準職員	特別契約職員	パート職員	合計
なないろ				3	3
さんみ苑			6	1	7
給食	2		1	1	4
デイサービス			2	1	3
キーパー				1	1
居宅介護			1		1
ほっとわーく			1		1
合計	3	1	11	11	26

通所施設においてはほぼ職員の充足が出来たが、入所施設さんみ苑においては入職者に対して退職者の数が多く、人手不足感が否めない状況であった。

平成30年3月1日における職員の状況は以下のとおりである。

職種別職員状況

	正職員	準職員	特別契約職員	パート職員	合計
施設長・副施設長 事務局長	5				5
管理職務者・課長	9				9
保育士・補助員	1	2	7	8	18
児童指導員・指導員	2	1	11	17	31
支援員・世話人	11	3	23	17	54
介護職員・介助員		2	11	5	18
看護職員		1	1	5	7
相談員	5	2	4	1	12
専門職	2		1		3
栄養士・調理員	4	2	7	7	20
運転手・キーパー				13	13
事務員	1		1	2	4
合計	40	13	66	75	194

#### (4) 職員研修について

##### 法人内部研修

「法人研修委員会」の計画の下に、法人新任研修、中級職研修、上級職研修、指導職研修を実施した。その他、虐待防止研修、応急救命、感染症予防研修も実施する。

##### 各種外部研修

県内・県外で開催される各種研修へ参加した。

#### (5) 役員会の開催状況

##### ●評議員会

開催数	開催年月日	議 題
第1回	平成29年6月29日	平成28年度決算認定 理事の選任
第2回	平成30年3月28日	平成29年度第2次補正予算案 平成30年度事業計画及び収支予算案 定款の変更 役員報酬規程の一部変更

##### ●理事会

開催数	開催年月日	議 題
第1回	平成29年6月12日	平成29年度事業報告並びに収支決算 第1次補正予算案 社会福祉充実計画 役員等報酬規程 定款の一部変更 経理規程の一部変 組織規程の全部変 決裁規程の一部変 理事候補者の推薦 監事候補者の推薦 平成29年度定時評議員会開催
第2回	平成29年6月29日	理事長の選定、業務執行理事の選定
第3回	平成30年3月5日	平成29年度第2次補正予算案 平成30年度事業計画及び収支予算 日常的金銭管理委託契約に関する保管物件取扱い規程等を一部 変更する規程 定款の変更 役員等報酬規程の一部変更 職員就業規則 職員給与規程の一部変更 有期契約職員就業規則の一部変更 有期契約職員給与規程の一部変更 育児・介護休業等に関する規程の一部変更 指名競争入札参加者指名審査会規程の一部変更 評議員候補者の推薦 平成29年度定時評議員会の開催

#### (6) 監 査

平成28年度決算監査（平成29年6月6日実施）

## (7) 会議開催

### A) 施設長会議

毎月の開催を定例化し、必要に応じて随時開催した。法人運営上の基本的課題等について協議するとともに、今後のふたば園のあり方などについても協議を重ねた。

### B) 管理職務者会議

月1回の定例開催とし、各事業の報告やワーキング会議の報告などを受けて協議を行った。

### C) サービス品質管理委員会（QC委員会）

月1回の定例開催した。

### D) プロジェクト会議

「ふたば園まつり実行委員会」を前年度3月より実施月（5月）にかけて開催した。

### E) その他

「ほほえみ運動会実行委員会」を関係施設と7月より実施月（9月）にかけて開催した。

その他、各事業毎に関係機関との連携・連絡会議に参加した。

## (8) 情報提供

法人事業のインターネットを通じて情報発信・公告の拠点として、ホームページを運営

## (9) 地域活動

### ・地域活動・イベントの実施・参加

主催イベントとしては、地域交流を目的とする「第9回ふたば園まつり」を5月20日に開催した。

その他に、地域開催イベントへの参画を継続した。

### ・法人が管理する施設設備等の活用推進

河添介護予防センター ほほえみ、からふる内のおもちゃ図書館の地域開放を継続した。

## 平成29年度児童発達支援センターからふる事業報告

関係機関や地域との連携がより強固になり、併せて気になるお子さんへの早期からの支援の必要性が重要視されてきたこと等で、からふるの利用児は増加傾向となっている。

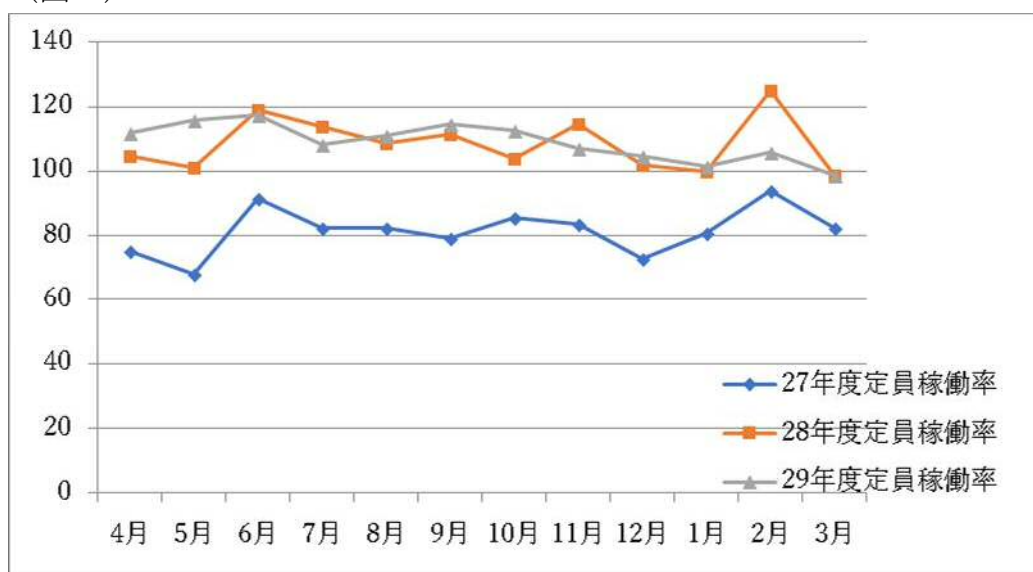
また、保育園等への訪問支援についても利用者が増えてきている。

その結果、からふるの運営や経営は安定してきているが、サービスの提供の改正や、年度当初からの待機児童がいるなど今後のサービス提供の在り方が課題である。

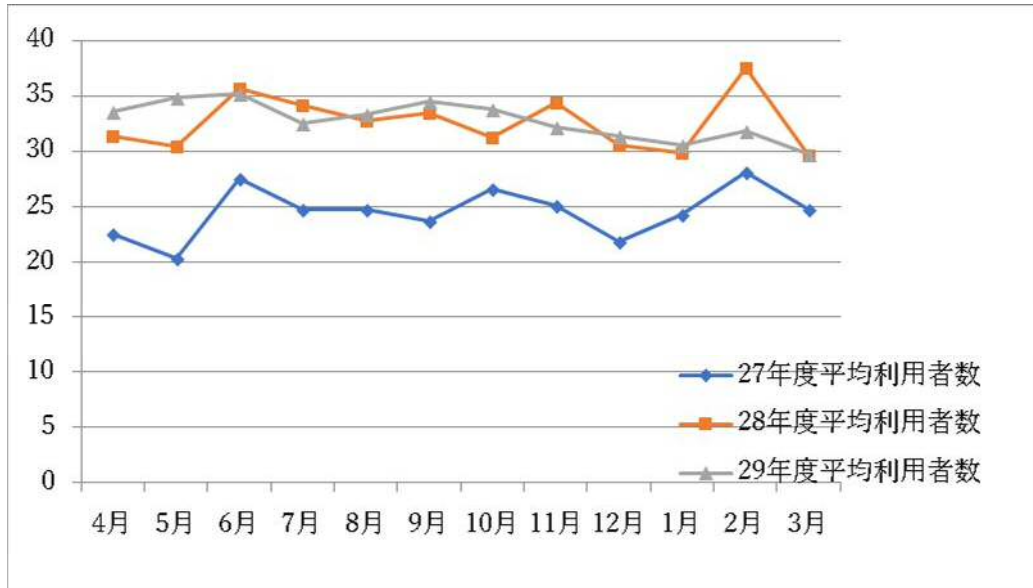
### 【児童発達支援事業】

- 29年度は、4月時点で定員数30名に対して60名の契約者となり、待機登録を行ってもらう形になった。保育園や幼稚園との併行利用の開始や登園日数の減少に伴い、年度内で待機登録を解消できたのは4名である。
- 利用契約児は増加していると同時に併行利用児も増えてきており、他機関との連携や就学支援など、職員の業務量や事務量が増えている。
- 保護者支援のための延長保育は10名の登録があった。(8:00~8:30、16:30~18:00)可能な場合は、保育園まで送るなどして延長利用人数減を図った。通園バスや早出など延長時間に対応する職員の増加により、会議や業務遂行、事務時間の確保が課題となり、バス添乗員と延長対応の職員を配置した。
- 125%上限で利用調整をして、本年度の定員稼働率は平均109.2%で減算をうけることなく、運営がおこなえた。ただし、幼児期の利用者が対象であることから、体調不良等での欠席や保育園、幼稚園の行事の影響を受けやすい状況にあることに変わりはなく、今後も稼働率の推移は月により大きいものとなる。

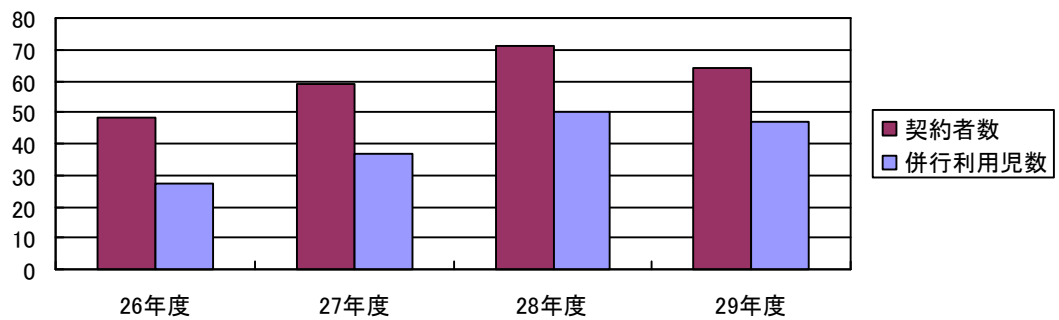
(図1)



(図 2)

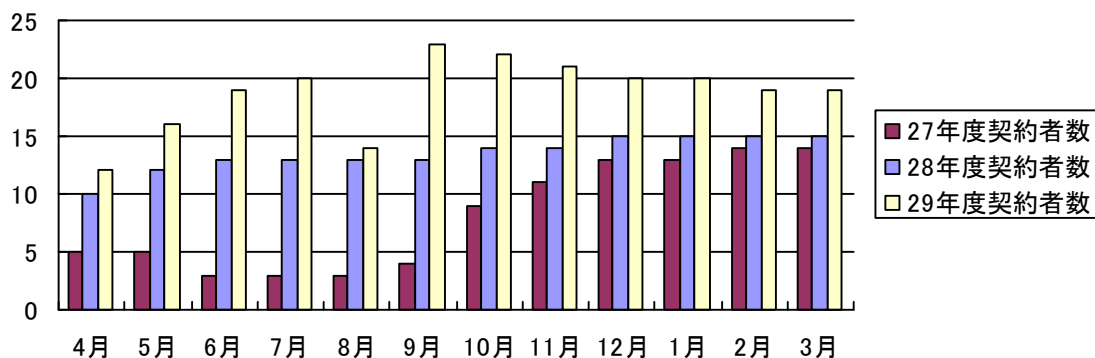


(図 3)



【保育所等訪問支援事業】

- 言語聴覚士・臨床心理士・保育士の多職種が訪問して療育を行うことで支援の中が広がった。また、利用希望も増えてきているが、全てに対応するには職員の調整が難しく、待機をしていただく状況となった。
- 学校や学童保育など求められる支援の内容や支援場所も広がってきている。どのようにサービスを利用していただくか、どのようなサービスを提供できるかなど、今後の課題として地域と協議していく必要がある。また、支援者としての力量と支援の充実はセンター職員全体を通じて引き続き課題である。
- より多くの方に利用していただくために契約者を増やしたが、訪問支援担当者が余力がないため、訪問先の都合や保護者の都合による利用調整が困難であった。そのため、支援提供ができなくなるケースもあった。



#### 【委託事業】

- 心身障がい児母子通園訓練事業

萩市の保健師体制〈子育て世代包括支援センター〉が強化されたことで、利用される親子が増えている。部屋の広さの問題もあり、現行以上の利用を受けることができないため、利用調整を行なわざるを得ない状況である。

- 在宅障害児療育等支援事業

山口県の委託事業をして以下の事業を実施した。

○在宅支援外来療育等指導事業・・・障害児及び家族等に対し相談支援等を行った。

○施設支援一般指導事業・・・保育所等の職員に対し療育に関する指導等を行った。

※29年度より、在宅支援訪問療育等指導事業の廃止と、対象者が、就学前の乳幼児に限定された。

- 発達障害児地域支援体制強化事業

① スクラム萩を設置し、リソースブックの作成を行った。

② 10月22日発達障害児に関わる機関を対象に、研修会を実施した。

③ メンターグループ相談会を5回実施した。内1回は東部地区を対象として須佐保健センターで開催した。

#### 【地域支援・地域貢献】

- 児童発達支援の研修会開催
- 放送器具、綿菓子器、玩具、図書等の貸し出し
- 5歳児相談会・発達クリニック等への職員派遣

#### 【人材育成・定着】

- 労働環境改善会議を設置し、働きやすい職場作りを目指した。
- 職員の効率的な働きと質の向上を目指し、休憩の取り方や超過勤務についての話し合いを持ち職員への意識付けをした。
- 療育の担当制やクラスを解体したグループ療育を実施し、職員が療育を実施しながら、相互に質の向上が図れるようにした。経験が少ない職員が多く、それぞれが意見を出し合い、考えていける良い機会となった。

## 平成29年度 放課後等デイサービス「のびっこくらぶ」・「えーる」

### 事業報告

今年度は、発達年齢に応じた支援の充実に重点をおき、それぞれの事業所で、子どもたちが楽しくのびのびと過ごせるように、安全面にも配慮しながら、療育支援・余暇支援に取り組んだ。また、子どもたち一人一人の特性を理解し、様々な経験の機会を提供した。

#### 【療育支援・余暇支援】

- ◆障がい特性に応じた個別支援、年齢に応じた活動や交友関係構築の支援を行った。

##### 「のびっこくらぶ」

○子どもたちが自発的に且つ、意欲的に活動に取り組むことができるように環境を整え、視覚支援を行うことなどに配慮した。課題等にも落ち着いて取り組むことができるようになった。

○からふる内の教具や遊具を有効的に活用して療育の提供を行った。

##### 「えーる」

○仲間意識が強くなり、友だち同士で励まし合ったり、助け合ったりしながら活動を楽しむ姿が増えてきた。自分たちで考えたり、話し合ったりする場面を増やしていくことで、活動に対する意欲に変化が見られるようになった。

○卒業後を見据え、お仕事活動を取り入れるなど目的をもって積極的に取り組めるように配慮を行った。

○パン教室や合唱の外部講師を依頼し、活動内容の幅を広げ余暇活動の充実を図った。

- ◆地域の社会資源を活用する機会を増やし、その中で様々な体験ができるように計画を作成し支援を行った。

- ◆保護者の意見だけでなく、特に「えーる」では子どもの思いも反映した個別支援計画を作成し、個々の支援を行った。

#### 【関係機関との連携】

- ◆萩総合支援学校をはじめ市内の小・中学校や関係機関と定期的に情報交換会を行う等、連携の強化を図りながら支援の充実に努めた。

- ◆他事業所や相談支援事業所と連携を図りながら子どもたちに必要なサービスが提供できるように努めた。

#### 【自己研鑽】

- ◆各種研修会に参加し、自己研鑽に努めた。

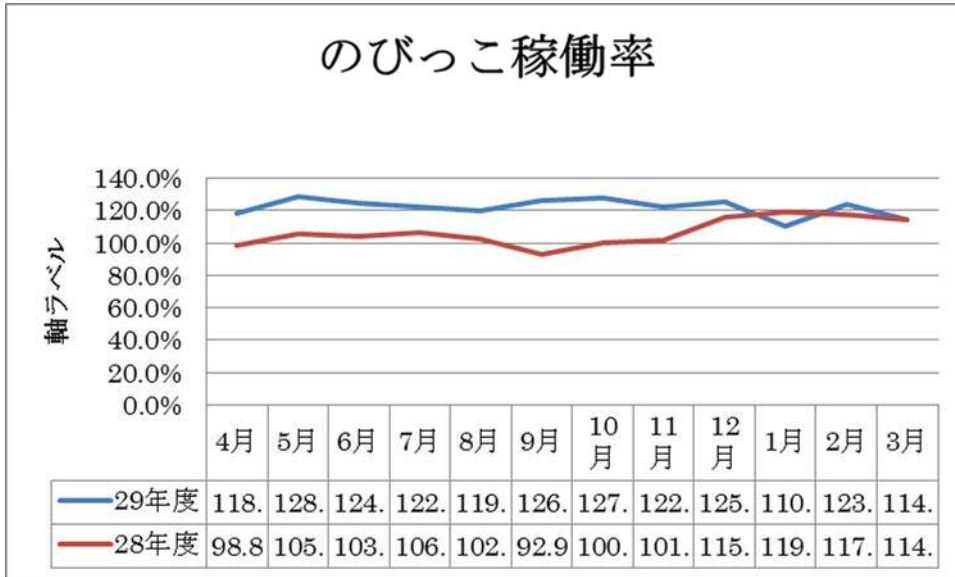


**【利用実態状況】定員：各 10 名**

**★のびっこくらぶ**

\*登録人数 38名

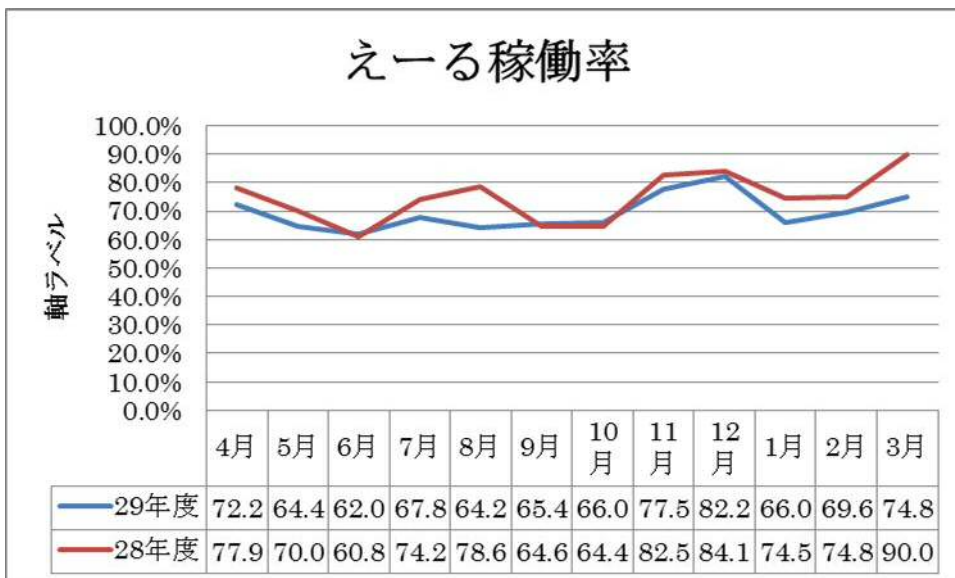
\*契約児童は増加の傾向にあり毎月利用調整をせざるを得ない状況があった。稼働率の年平均は100%を超えた。(平均122%)



**★えーる**

\*登録人数 20名

\*他事業所で行われている運動クラブに利用が集中するため、曜日によって利用希望が少なく、プログラム内容や休日開所する等努めたが、年平均は70%に満たなかった。(平均69.3%)



## 平成29年度 ヘルパーステーションみらい事業報告

### ●総括事項

平成29年6月1日付で事業を開始し、当初利用人数 2名からスタートした。はじめての利用者は2人介助を必要とし、朝夕の身体介護サービスから始まった。障害者とのかかわりの中で戸惑い等あったが、緩やかなペースで利用者も増えてきた。事業開始後の気づきとして、障害者の方やご家族は訪問ヘルパーを利用できることを知らない人が多いため、今後更なる啓発が必要ではないかと感じている。

### ●収益（表1）

開始当初は1人分の給料も出ない状態だったが、月に1人くらいのペースで利用者は増えてきた。しかし、精神障害の方等は、入院や、施設に入所される場合もあり利用に関しては不安定である。サービス内容については家事援助が多いため、収益を考えると利用者数の増加と、身体介護の増加が必要である。移動支援や同行援護も行っているが不定期であるため、今後定期的に利用があると計画を立てやすくなる。

### ●専門職としてのスキルアップ

- ・ 同行援護従業者養成講座や行動援護支援者養成講座(基礎・実践)を受講
- ・ 法人研修会の参加
- ・ 毎月1回ヘルパー会議後に研修実施
- ・ 新規利用者訪問時には必ず、担当責任者が同行し指導助言を行う

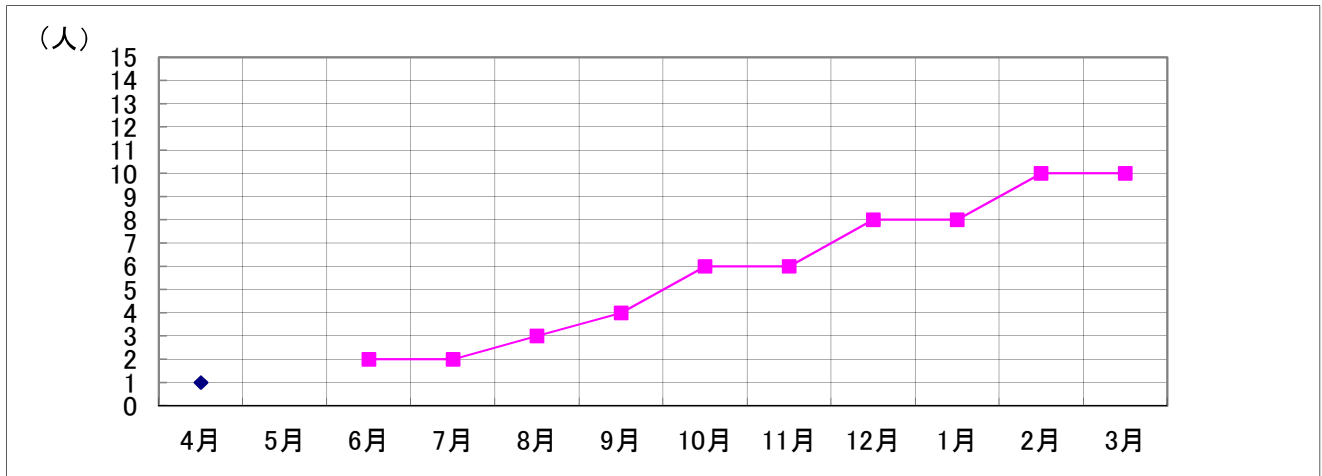
### ●関連機関との連携

障害者生活支援センターや包括支援センター等、計画書に基づいたサービスを実施しながら、利用者の体調の変化、生活の中の困難な点等あれば報告、相談を実施している。

ヘルパーステーションみらい

表1  
利用者数

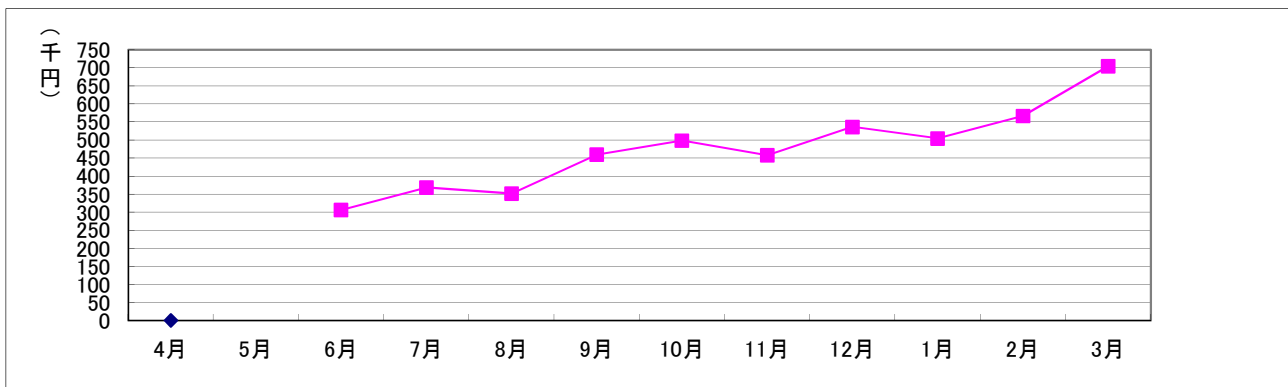
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H29年度			2	2	3	4	6	6	8	8	10	10	59



報酬比較

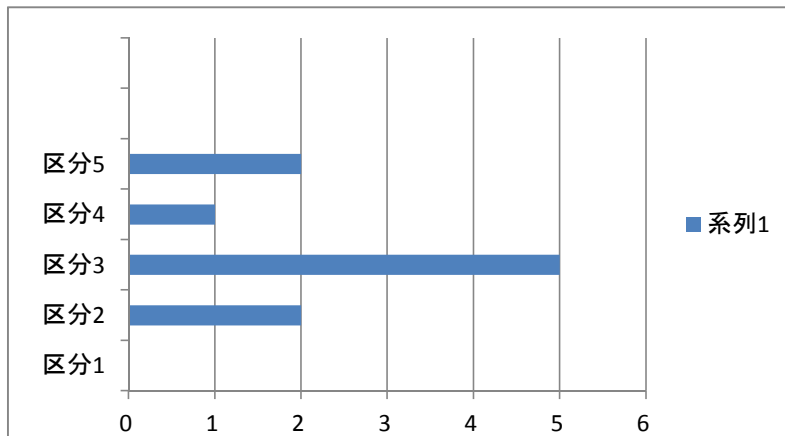
(単位：千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H29年度			307	369	352	460	499	458	537	505	567	705	4,759



H.30.3月現在の障害区分別人数

区分1	区分2	区分3	区分4	区分5
	2	5	1	2



## 平成29年度 なないろ（障害福祉サービス事業所） 事業報告

### 重点事業方針についての取組結果（総括）

なないろが椿東地区に移転改築し、5年目を迎え、北部地区初の就労継続支援A型事業（喫茶なないろ）での取り組みを中心に、誰もがひとりの人間としてその人らしく生活を送るために必要とされる事業所となるべく、各事業の充実をめざした1年であった。特に、**就労継続支援A型事業**では、会計基準が厳格化され、喫茶なないろも経営改善計画の対象施設となったため、経営計画に基づいた事業の運営に努めた。結果としては経営状態が改善し、黒字化することができた。

ただし、経営に着目しながら利用者の雇用を両立させることは大変難しく、喫茶「なないろ」や厨房の中で安定して働くことのできる利用者を確保することがとても難しい状態であった。今後、仕事量の増加や業務変化があっても安定して働くことができる利用者（スタッフ）を育てることが今後の課題である。

**就労継続支援B型事業**では、施設外就労先の主力であった萩明倫館を別の団体が管理することとなった影響で、平均工賃月額が1万4千円台となった。（前年度1万7千円台）このことは、平成30年度からの総合支援法の見直しによって実施される「事業の実績に基づく報酬の支払い」としてマイナス要因となるため、次年度以降、改善が必要な状況となっている。利用者の自立という面では、1名が一般就職となり、就労継続事業が持つ社会的な役割を果たす結果となった。

**就労移行支援事業**では、利用者1名の就職が決まり、年度末に1名がトライアル雇用の決定、1名が事業所実習の予定となった。また、昨年度に引き続いて、就業経験のない利用者が、就労継続支援B型事業を利用する際に必要となる就労アセスメント希望者の利用が定期的にあった。移行支援では、今後の見直しに関わって、就労定着支援事業が新設される予定で、このことについても検討が必要となっている。

**生活介護事業**では、就労事業利用者が、仕事以外のニーズ（ドライブしたい・散歩をしたい）を満たすために、並行利用するケースが出てきており、20名の定員に対して利用率が110%台で推移した。総合支援学校の卒業生などの動向次第では、定員の調整を行うことも検討が必要となる。

## 平成29年度 萩市障害者支援施設 さんみ苑 事業報告

重点事業方針に以下を掲げました。

◆「利用者様本位」を念頭に置き、誰もが安心して「暮らせる」場、楽しく「過ごせる」場となるよう努めていきます。

- ・虐待の防止、拘束の原則に基づいて適切な支援を行います。
- ・生活介護事業における活動のバリエーションを増やし、個々が楽しめる内容を取り入れます。
- ・声かけ、呼称、コミュニケーションについて専門知識を持って支援を行います。
- ・(新任)研修の充実を図ります。
- ・障害の重度高齢化に伴う環境整備を行います。

◆地域の拠点施設としての役割が果たせるよう努めていきます。

- ・ショートステイ、日中一時の受け入れについて積極的に取り組みます。
- ・地域開放日を設け、開かれた施設を目指します。(未実施)

### ○入所支援

- ・主な継続加算: 夜間職員配置加算、重度障害者支援加算
- ・見守りを強化し事故防止に努めました。
- ・医務チームでは、誤薬を防ぐ取り組みや健康管理について部内検討を重ねました。
- ・緊急時の医療体制について嘱託医との連携強化を図りました。

・職員への虐待意識調査を実施しました。

### ○生活介護

- ・5月から土曜開所日の日数を調整しました。10月から入所者の開所日を設けました。
- ・日帰り旅行(サファリ)と個別外食を実施しました。活動メニューは増えております。
- ・個々の併行利用ニーズに伴い、曜日毎の実績が微減しました。
- ・生産活動(鶴惣作業)を実施し、年間一括で工賃を支払いました。

### ○短期入所

- ・地域ニーズに応じ、新規利用者様の受け入れも行いました。
- ・萩市外市町から見学の間合せが数件ありました。
- ・多くのニーズに応えるため、利用について月5日間としました。(緊急時の受入は5日以上も可)

### ○日中一時

- ・地域ニーズに応じ、新規利用者様の受け入れも行いました。
- ・萩市外市町から見学の間合せが数件ありました。
- ・事業所都合で5~8月まで受入休止しました。

	H29年度	H29年度	H29年度	H28年度	H28年度	備考
	のべ入所日数	開所日数(日)	利用率	のべ入所日数	利用率	
施設入所 定員: 30名	4月	857	30	95%	880	98%
	5月	891	31	96%	893	96%
	6月	873	30	97%	879	98%
	7月	905	31	97%	868	93%
	8月	897	31	96%	888	95%
	9月	886	30	98%	877	97%
	10月	883	31	95%	903	97%
	11月	885	30	98%	881	98%
	12月	901	31	97%	878	94%
	1月	888	31	95%	866	93%
	2月	812	28	97%	822	98%
	3月	913	31	98%	902	97%
		10591	365	97%	10537	96%
平均利用者数			29.02			

	H29年度	H29年度	H29年度	H28年度	H28年度	H28年度	
	のべ人数(人)	開所日数(日)	利用率	のべ人数(人)	開所日数(日)	利用率	
生活介護 定員:50名	4月	917	22	83%	941	23	82%
	5月	860	20	86%	920	22	84%
	6月	925	22	84%	950	22	86%
	7月	863	20	86%	976	23	85%
	8月	879	21	84%	914	23	79%
	9月	948	22	86%	934	22	85%
	10月	911	23	79%	911	22	83%
	11月	919	22	84%	929	22	84%
	12月	936	23	81%	959	23	83%
	1月	932	23	81%	955	23	83%
	2月	751	20	75%	848	20	85%
	3月	958	23	83%	963	23	84%
	平均	10799	261	83%	11200	268	84%
	平均利用者数			41.38			
	平均障害支援区分			4.6			

	H29算定日数	H29利用件数	開所日数	利用率	H28利用件数	H28利用率	
短期入所 定員:6名	4月	67	13	30	37%	26	49%
	5月	61	9	31	33%	29	39%
	6月	40	13	30	22%	25	42%
	7月	72	16	31	39%	21	49%
	8月	54	18	31	29%	24	33%
	9月	68	16	30	38%	19	44%
	10月	39	16	31	21%	24	34%
	11月	68	15	30	38%	17	43%
	12月	43	15	31	23%	20	30%
	1月	59	13	31	32%	20	43%
	2月	28	12	28	17%	21	44%
	3月	61	15	31	33%	15	56%
	合計	660		365	23%		32%

	H29のべ人数	H29開所日数	利用率	H28のべ人数	H28利用率	備考	
日中一時 定員:2名	4月	2	30	3%	6	10%	
	5月	休止	31	0%	2	3%	
	6月	休止	30	0%	6	10%	
	7月	休止	31	0%	5	8%	
	8月	休止	31	0%	3	5%	
	9月	0	30	0%	0	0%	
	10月	1	31	2%	1	2%	
	11月	3	30	5%	4	7%	
	12月	3	31	5%	2	3%	
	1月	3	31	5%	4	6%	
	2月	3	28	5%	2	4%	
	3月	1	31	2%	3	5%	
合計	16	365	2%	38	5%		

**理念:地域の中で自分らしく暮らす**

○入居されている人それぞれが、充実した生活を送るために、サービス計画を作成し、居住支援を展開しました。個々の自立に向けたサービス提供に加えて、介護要素に配慮したサポート体制の構築に努めました。

事業の実施にあたっては、本人、家族、関係機関との連携を図り、総合的なサービス提供を行いました。

**【健康管理】**

今年度は、2名の利用者が癌を患われ、見送ることになりました。終末期を支えることでの職員の苦悩は、家族や関係機関との連携で乗り越えてこられたと考えます。また、意思表示が弱い方の健康管理には、毎日の観察、情報共有、察する力が、必須であり努めました。

- ・入院 4名 (三隅病院、都志見病院、市民病院、山口日赤病院)
- ・感染性胃腸炎 4名 (日中活動からの感染:2月)
- ・インフルエンザ 8名 (はいつ・びわ、ほたる:3月)
- ・通院支援(健康診断も含む):月平均22回
- ・自主通院者は病院と連携を取り、受診票(本人の症状を記入、ドクターが受診内容を記入)を提出し受診内容を把握するように努めました。
- ・服薬管理:17名

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
延通院支援回数	16	12	13	25	23	33	122
利用者数	11	9	12	14	14	18	
入院者数		1	1	1	1		
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延通院支援回数	28	25	23	18	19	22	257
利用者数	18	18	18	16	14	16	
入院者数	2	2	3	2			

**【防災対策】**

はいつびわ・ほたるは、「土砂災害特別警戒区域」の指定を受けおり、さんみ苑と合同で「土砂災害避難訓練」を行いました。また各ホームで、2月に地震火災避難訓練、火災夜間訓練を行いました。

**【職員研修】**

県や法人主催の研修会(虐待研修等)に参加し、職員の質の向上に努めました。

		h27年度	h28年度	h29年度	開所日数(日)	h27年度	h28年度	h29年度
		のべ人数(人)	のべ人数(人)	のべ人数(人)		利用率	利用率	利用率
共同生活援助施設 設定員 20人 はいつびわ 6人 はいつほたる 6人 ひじわらほーむ 4人 むたがはらホーム 4人	4月	562	576	554	30	94%	96%	92%
	5月	557	580	531	31	90%	94%	86%
	6月	554	584	532	30	92%	97%	89%
	7月	555	602	540	31	90%	97%	87%
	8月	561	595	533	31	90%	96%	86%
	9月	542	577	560	30	90%	96%	93%
	10月	577	606	555	31	93%	98%	90%
	11月	552	567	513	30	92%	95%	86%
	12月	556	563	508	31	90%	91%	82%
	1月	563	560	514	31	91%	90%	83%
	2月	536	531	502	28	96%	95%	90%
	3月	564	579	529	31	91%	93%	85%
			6679	6920	6371	365	91%	95%
平均利用者数		18.3	19.0	17.5		・退所者:2名 ・入所者:2名 ・空室:1		
平均障害程度区分			2.3	2.25	2.63			

## 平成29年度 萩市デイサービスセンターさんみ苑 事業報告

### 《 総括 》

新規利用者はいるものの、重度で毎日利用の方が入院や入所されたことにより、利用者数と述べ利用回数の低下が見られ、介護報酬の減収となった。加算等は変わらず算定することができている。

単なる預かりや楽しみの場ではなく、個々の利用者が意欲的に活動ができるよう、自立支援・機能訓練に着目したサービス・活動を展開することができている。

職員においては、研修に積極的に参加し、学びをどう形にするか、各委員会にて検討・対応することができた。委員会活動を継続することにより、職員一人ひとりの自発性、意欲、発言力の向上が見られた。

### 《重点方針における取り組みについて》

◆介護報酬の減収とならないよう、利用者数と利用率の増加に対する取り組み、サービス提供地域の拡大と加算体制の強化・安定に努める。総合事業利用者に対しては、介護予防への取り組みの強化、個々の状況にあった対応ができるよう努める。

→重度者の入院や入所の影響が大きく、結果的に利用者数の低下となり、減収につながった。2月はインフルエンザの蔓延により利用者数の低下が著しい。サービス提供地域について、現在越ヶ浜地域まで拡大し、利用者や家族の方に喜んでいただいている。新規者は、事業対象者、要支援や要介護1の軽度の方が多い。総合事業対象者については、自立支援に向けた取り組みを行ったが、個別支援については今後の課題としている。

◆キャリア段位制度の導入により、段位獲得者の増加、質の高い介護職員の養成に努める。利用者の重度化が進む中で、職員の知識や技術の向上・共通理解に向けた、内部研修の充実・外部研修への参加を積極的にすすめる。看護職員については、機能訓練の強化と口腔ケアの質の向上に努める。加えて衛生管理(感染予防含)や体調不良・緊急時の対応の強化を図る。

→質の高い介護職員の養成のため、初任者研修、介護福祉士、介護支援専門員等の資格取得を積極的に勧めている。知識と技術の向上のため、各委員会を中心とした内部研修、出張の復伝研修を積極的に行った。萩市デイサービスを考える会研修会・ケアカフェ萩等への参加が少しずつ定着してきている。看護職員については、機能訓練や口腔ケアに対する研修会への参加、定期的な看護会議により共通認識、知識と技術の向上に取り組んでいる。

◆衛生管理、転倒予防に着目した環境整備の強化に努める。

本人の残存機能を活かし、職員の腰痛予防等のため、車椅子トイレ、洗面所の整備を行う。感染予防や健康管理の観点からの環境整備にも取り組む。

→職員の腰痛予防については、複数での介助等に心がけ、業務を行っている。車椅子トイレと洗面所の整備については、萩市との調整が付かず延期となっている。2月のインフルエンザ蔓延の反省により、手洗い、消毒、換気等をより強化している。

◆食事やおやつ・水分の提供において、食器・自助具・行事食等の検討を継続して行う。厨房と連携し、作って食べる楽しみを味わえるよう料理教室等の取り組みを継続的に行う。個々の状況や体調に合わせた食事内容・形態で提供できるように努める。

→水分量、食事量の低下している方に対し、食器の変更、声かけ、関わりに付いてデイ会議等にて検討、共通認識・対応することができている。食事委員会により、個々の食事形態・内容については迅速に対応できている。また、夏と冬にはおやつレクを企画し、今年度は作って食べる楽しみに、機能訓練の要素を加えた取り組みを行うことができた。

◆ボランティアや慰問を積極的に受け入れ、事業プログラムの充実を図る。午前中のプログラムの見直しを行い、充実した時間が過ごせるようなサービス提供を展開していく。お楽しみ会等の開催により、楽しみの増大、新しい利用者の拡大につながるよう取り組む。

→午前中の活動としては、機能訓練を中心とした活動に取り組んでいる。

3月にはボランティアの方数団体をお招きしたお楽しみ会を開催し、利用者・慰問された方ともに喜んでおられた。

◆中重度・認知症の方が不安なく穏やかに過ごせる空間作りに取り組み、活動内容の検討を行う。

→認知症対応委員会を中心に、アセスメント、活動の見直し、環境づくりについて検討し、取り組んでいる。

### ◆啓発活動

法人のホームページ、さんみ苑だよりに加え、「さんみ苑デイだより」を年4回発行し、利用者や家族の方に活動やサービス内容を発信している。

※収入、利用実績前年度比については別紙表1.2参照



表1:対前年度収入比較 (概算利用者負担額合)

(単位:千円) ※千円以下切捨て

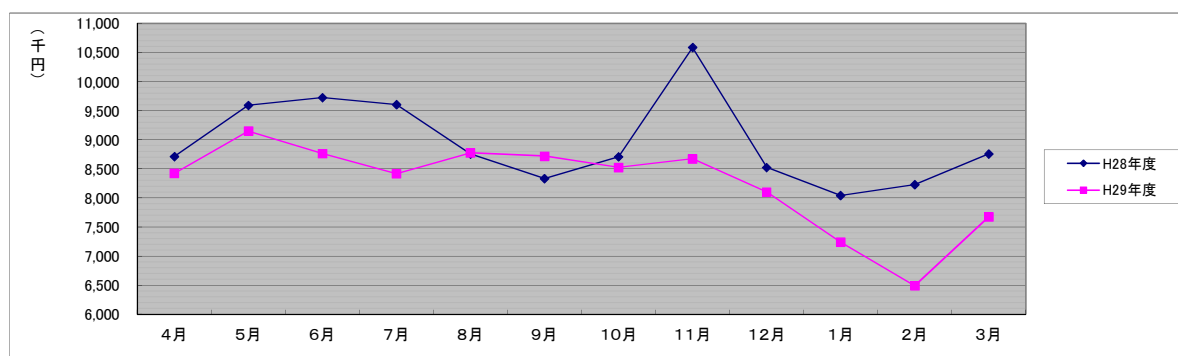
【H28年度】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
介護保険	7,531	8,300	8,433	8,335	7,602	7,271	7,553	9,281	7,422	7,006	7,178	7,649	93,561
一部負担額	903	998	1,009	986	903	854	898	1,086	899	849	862	911	11,158
萩市介護予防教室	195	195	198	198	174	144	180	153	144	138	141	141	2,001
利用者負担額	84	100	87	88	79	66	78	68	61	50	51	56	868

【H29年度】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
介護保険	7,361	7,981	7,583	7,272	7,713	7,716	7,476	7,428	7,048	6,258	5,526	6,584	85,946
一部負担額	903	998	1,009	986	903	854	898	1,086	899	849	862	911	11,158
萩市介護予防教室	117	120	123	117	114	108	111	114	114	99	78	141	1,356
利用者負担額	44	49	47	45	46	41	41	46	42	36	28	41	506

【集計】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H28年度	8,713	9,593	9,727	9,607	8,758	8,335	8,709	10,588	8,526	8,043	8,232	8,757	107,588
H29年度	8,425	9,148	8,762	8,420	8,776	8,719	8,526	8,674	8,103	7,242	6,494	7,677	98,966



※平成29年11月末に要介護4.5の毎日利用の方が入院、2月はインフルエンザ発症による利用者数の低下による。  
 ※中重度者の入院・入所と2月のインフルエンザ発症により利用者数が減ったこと、重度者が減り軽度者が増加したことにより、全体的に減収となった。

表2:対前年度月別、介護度別利用回数、稼働率比 (延べ)

(単位:人)

【平成28年度】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護予防教室	65	65	66	66	58	48	60	51	48	46	47	47	667
介護保険	898	961	959	953	954	897	953	877	905	860	852	957	11,026
事業対象	20	40	44	50	71	74	86	89	101	115	128	148	966
要支援1	17	20	20	15	14	4	4	8	7	5	0	0	114
要支援2	42	40	40	44	30	33	26	25	24	16	7	0	327
要介護1	365	364	348	352	375	336	370	297	272	241	244	291	3,855
要介護2	158	172	175	195	194	191	197	189	218	215	215	268	2,387
要介護3	151	157	151	147	131	125	129	132	132	131	133	121	1,640
要介護4	99	121	134	104	91	89	98	96	97	85	76	84	1,174
要介護5	46	47	47	46	48	45	43	41	54	52	49	45	563
合計	963	1,026	1,025	1,019	1,012	945	1,013	928	953	906	899	1,004	11,693
稼働率	74%	79%	79%	78%	75%	73%	78%	71%	71%	76%	75%	74%	75%
介護保険事業のみの稼働率	69%	74%	74%	73%	71%	69%	73%	67%	67%	72%	71%	71%	71%

【平成29年度】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護予防教室	39	40	41	39	38	36	37	38	38	33	26	36	441
介護保険	898	977	943	927	936	911	917	871	852	777	669	846	10,524
事業対象	12	10	9	12	12	16	17	15	17	22	20	30	192
要支援1	59	68	64	61	60	44	47	48	34	33	32	47	597
要支援2	63	62	66	68	67	74	71	65	67	61	41	60	765
要介護1	253	266	264	303	320	311	288	269	282	279	258	317	3,410
要介護2	259	298	279	249	247	247	240	218	235	217	185	191	2,865
要介護3	116	154	139	100	99	89	119	121	110	97	91	129	1,364
要介護4	83	61	62	84	67	72	78	74	73	39	18	45	756
要介護5	45	49	51	42	55	49	48	53	25	21	18	14	470
合計	929	1,008	975	958	965	938	945	901	881	802	689	869	10,860
稼働率	74%	75%	75%	74%	71%	72%	73%	69%	68%	67%	57%	64%	70%
介護保険事業のみの稼働率	72%	72%	73%	71%	69%	70%	71%	67%	66%	65%	56%	63%	68%

◆平均介護度

平成28年度	2.1
平成29年度	1.9

◆認知症加算(≦20%)

平成28年度	27.7%
平成29年度	23.0%

◆中重度ケア体制加算(≦30%)

平成28年度	35.1%
平成29年度	29.3%

※介護保険延べ利用者に対する入浴サービス利用者は70%であり、デイサービスでの入浴の必要性が高い。  
 ※認知症加算は研修修了者を3名配置し、継続的に算定できている。平成29年度実績により、平成30年度は中重度ケア体制加算は算定できない。  
 ※毎年、事業対象者、要支援1.2、要介護1の軽度者で認知症の方の割合が増えている。

## 平成 29 年度 居宅介護支援事業所事業報告

### ●総括事項

- ・担当エリアは、三見・山田に限らず、椿東、長門市と広範囲である。
- ・障がい者が 65 歳になり介護保険施策に以降し、担当している件数は、まだ数件である。
- ・介護支援専門員の担当件数に余裕がある状況が、数年継続している。
- ・在宅を断念しざるを得ない背景
  - ① 本人の健康状態はじめ、自宅で住み続けたいという意思の消失
  - ② 本人を支える介護者の力  
是が非でも家で見ていこうという考え方が当初はあったとしても、介護しなければいけない介護者自体の介護者の高齢化や健康状態の変化。別居生活で遠方から行き来する時間や経済面の負担は、大きく影響する。
  - ③ 本人・家族をとりまく、介護のチーム力。(近隣との関係性・地域を支えあい力の低下。訪問診療対応の医師に限りがある。訪問看護対応は全域可。通所系のサービスは送迎範囲に限りがある。通院・買物など交通手段の確保、同時に経済面の負担増。)
  - ④ 本人・介護者に向き合う介護支援専門員の力量、関係機関との連携調整能力が、大きく影響している。

### ●収益（表 1）

担当利用者数は、徐々に減少している。

新規担当件数がないわけではないが、その数は少ない。

介護者の疲弊や、独居生活が困難となり、施設入所や入院せざるを得なくなったり、在宅で長年支援してきた方が逝去されるという現実もあり、結果的に前年度を下回る結果となった。

しかし、今年度平成 29 年 5 月からは、特定事業所加算により、若干の収益増となっている。

### ●専門職としてのスキルアップ

今年度より、介護支援専門員実務研修を受け入れた。

主任介護支援専門員更新研修受講要件のための研修など、国からの個々の介護支援専門員に義務付けられた研修に加え、多種多様なニーズに対応できるようにと、各種研修に参加し、自己研鑽に努めた。概ね毎月 1 回開催された、西地域包括支援センター主催の事例検討会に加え、多くの居宅介護支援事業所の同志で開催している事例検討会にも参加した。事業所内では、概ね週一回の介護支援専門員の話し合いで、個々の抱えている状況を共有し、不安や疑問を少なくし、目の前の利用者に向き合い、対応できるように努めている。

### ●関連機関との連携

包括支援センター主催の多職種連携会議への参加や、ケアカフェへの参加。自主的な研修参加など福祉関係者との仲間作り、顔見知りの関係作りに努めている。医師にも、本人の状況を直接伝えるなど、ターミナルケア、医療依存度の高い方を支援する際のより多くの方との支援体制の構築、連携に努めた。他市の医療機関に入院された後の退院支援から関わる件数も増えている。

認知機能など判断能力の低下のある方には、権利擁護事業、障がい施策担当者との連携も深まっている。

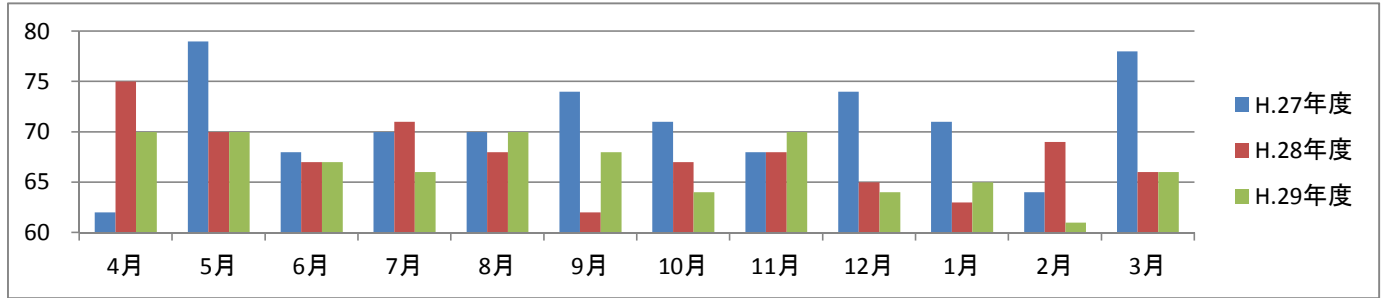
居宅介護支援事業所 平成29年度

表1

対前年度要介護利用者数比較

※要支援含まず

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H.27年度	62	79	68	70	70	74	71	68	74	71	64	78	849
H.28年度	75	70	67	71	68	62	67	68	65	63	69	66	811
H.29年度	70	70	67	66	70	68	64	70	64	65	61	66	801

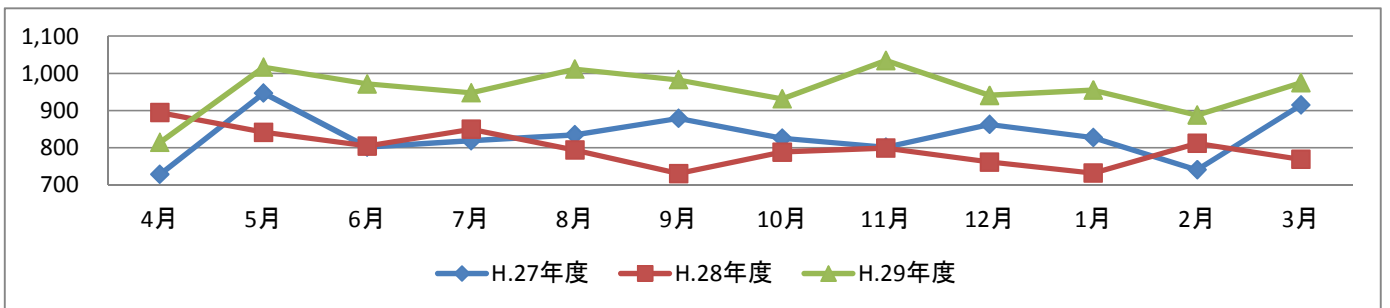


対前年度比介護報酬比較

(単位：千円)

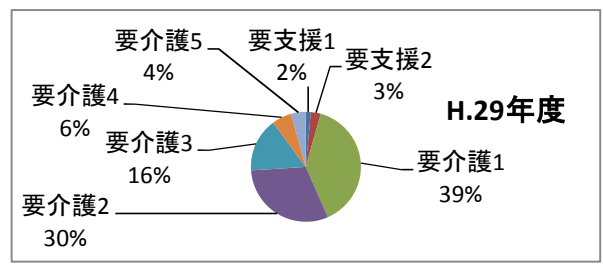
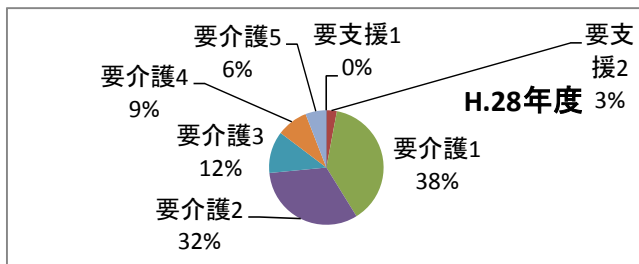
※予防給付含まず

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H.27年度	729	947	802	819	835	879	826	802	863	828	741	915	9,986
H.28年度	895	842	805	850	794	731	789	799	762	732	812	769	9,580
H.29年度	815	1,017	972	948	1,012	983	932	1,035	941	955	888	975	11,473



対前年度.3月現在の介護度別人数

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
H.28年度	0	2	26	22	8	6	4
H.29年度	1	2	27	21	11	4	3



初回加算対象件数(要介護)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H.28年度	4	1	2	1	2	0	4	2	2	0	4	4	26
H.29年度	4	0	0	2	2	2	1	3	1	2	2	2	21

初回加算対象件数(要支援)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H.28年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H.29年度	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2

※ 平成28年度 新規26件、平成29年度 新規23件。

(要支援) 報酬額単位円(件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H.28年度	7740(2)	7740(2)	7740(2)	7740(2)	7740(2)	7740(2)	11610(3)	11610(3)	11610(3)	11610(3)	11610(3)	7740(2)	112,230
H.29年度	7740(2)	7740(2)	14610(3)	11610(3)	11610(3)	11610(3)	7740(2)	7740(2)	11610(3)	11610(3)	7740(2)	14610(3)	115,970

# 平成29年度 萩市在宅介護支援センターさんみ苑 事業報告

## ○ 相談実績累計

	相談形態別累計							その他	夜間	台帳登録者数
	電話	来所	訪問	FAX	会議	その他	計	調整回数	(再掲)	実数
H28	678	22	509	31	9	285	1534	41	61	0
H29	529	29	475	14	7	433	1487	234	34	4

## ○ 相談内容累計

	生活支援・予防事業											介護保険サービス			医療			認知					
	配食	外出支援	乾燥消毒	寝具類洗濯	ヘルプサービス	生活援助ホーム	訪問理美容	介護予防・特定	デイサービス	生活支援	ショートステイ	緊急通報装置	家族介護者支援	その他福祉サービス	在宅サービス	施設サービス	その他	入院	退院	その他	本人	家族・親族	関係機関
H28	292	0	0	2	5	165	12	24	368	34	12	74	25	232	60	28	186	121	6	0	1		
実人数	44	0	0	2	2	76	8	2	147	22	8	45	8	71	31	17	68	40	6	0	1		
H29	245	0	0	6	2	111	55	0	292	34	19	140	37	86	64	25	100	103	14	0	2		
実人数	48	0	0	5	1	71	35	0	135	20	9	67	14	46	38	17	44	47	6	0	1		

	精神			家族・親族関係		虐待				成年後見			その他			合計			
	精神疾患	アルコール依存	閉じこもり	その他	家族・親族トラブル	地域とのトラブル・苦情	その他	高齢者	障害者	一般	その他	市長申し立て	高齢者	障害者	その他		権利擁護	実態把握	その他
H28	11	2	2	30	10	7	48	1	0	0	1	0	0	0	3	1	294	181	2238
実人数	6	2	2	11	6	5	26	1	0	0	1	0	0	0	2	1	213	118	992
H29	7	0	15	10	21	27	46	0	0	0	0	0	0	0	2	334	281	2078	
実人数	6	0	8	8	11	16	29	0	0	0	0	0	0	0	2	228	207	1119	

## ○ 対応実績累計

	相談	情報提供	連絡調整	家庭訪問	取次斡旋	ケース検討	申請代行	会議	研修	苦情	その他	合計	サービス適用実人員	サービス開始人数
H28	747	302	697	478	3	9	91	11	0	0	141	2479	350	91
H29	776	236	642	442	1	12	79	12	0	1	198	2408	431	79

○ 実態把握加算の実績

	実施月												合計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
H28	13	48	34	21	10	8	13	7	1	8	14	18	195
H29	13	36	31	22	4	14	10	11	10	11	9	16	187

○ 求めている支援類型

	ケアマネジメント	社会資源の紹介	対人援助	制度説明確認	研修学習	個人の悩み事	同行訪問	その他	合計
H28	0	31	719	365	0	12	5	32	1164
H29	3	107	743	448	0	113	38	28	1481

○ 地域活動

	地域サロン	体力測定	地域生活体制整備事業	徘徊見守りネットワーク会議	地域行事	合計
H28	40	4	9	4	2	59
H29	44	5	9	0	4	62

総評：民生委員はじめ地域、家族からの相談により、萩市西地域包括支援センターと同行訪問し、実態把握することが多かった。  
 配食サービス、緊急通報、介護用品支給事業などほぼ、例年通りの対応。  
 生活支援デイサービス等、介護保険以前の状態から、自主的に利用したいという対応件数が増えている。  
 今後も、地域生活体制整備事業をはじめ、共助力を高めるように働きかける。

## 平成29年度 萩市障害者生活支援センターほっとすぺーす 事業報告

### ➤ 相談支援

○相談件数：延べ4021件

(内訳) 電話：1759 訪問：1243 来所：672 FAX：6 メール：39 ピア相談：1

その他：301

○相談者数：延べ4049名

(内訳) 本人：1300 家族：1170 学校：36 事業所：478 保育園：38 幼稚園：25

関係機関：996 その他：6

### ➤ 指定特定相談支援事業（障害者）及び指定障害児相談支援事業

<サービス等利用計画作成対象数>

事業名	29年度	28年度
指定特定相談支援事業	246人	255人
指定障害児相談支援事業	200人	179人
合計	446人	434人

障害者については、減少ケースは介護保険への移行や他相談支援事業所への移行等が主な理由となっています。

障害児及び療育が必要な児童については、萩市の早期発見・早期療育という方針により相談件数が増え、今年度もサービス等利用計画作成数が増えています。就学等で一旦終了するケースも多ありますが、新規ケースもありますので全体的には増加しています。

1人の相談支援専門員の担当ケース数が障害者・児合わせて60～80人となっています。

### ➤ 本人活動支援・社会資源活用・社会生活力を高める支援事業

活動名	開催回数	参加者（延べ人数）	備考
映画鑑賞 (萩ツインシネマ)	2回	0人	4/15・3/25 に企画しましたが参加者が 無く中止にしました。
レッツ☆ダンス ・日曜教室 ・水曜教室	24回 (うちイベント 参加4回)	227人 (うちイベント参加42人)	<イベント参加> ・4/16「歌の祭典」 ・5/20「ふたば園まつり」 ・7/2「芸能の夕べ」 ・8/5「萩総サマーナイト フェスティバル」

ほっとすぺーす講演会 (ピアカウンセリング事業)	1回	49人	8/26『自分を知る為のピアカウンセリング』 講師：CIL 下関自立センター 河本・益本氏
ほっとすぺーす講演会 (ピアカウンセリング事業)	1回	29人	2/28「統合失調症と共に」 講師：山本秀雄氏
料理教室	1回	7人	7/30 料理教室
お茶会	1回	60人	3/10 春のお茶会
ぴあクラブ	6回	46人	6/13「似顔絵を描いてみよう」 7/8 「ヨガ教室」 9/9 「体験を聞こう」 11/2「似顔絵を描いてみよう」 12/7 「手話で挨拶しよう」 1/11 「健康体操」

➤ 障害者ピアカウンセリング事業

○当事者ほっとさぽーたー4名      ○家族さぽーたー 2名

○萩市身体・知的障がい者相談員 7名

<活動内容>

○ピア相談を受けて自立生活への助言等を行いました。

○ほっとさぽーたーがぴあクラブに参加して助言や相談等を行いました。

○5/20 ふたば園まつりにて、ピアカウンセリングコーナーを設け、相談や啓発活動を行いました。

○講演会の企画、スタッフとして参加しました。

➤ 意思疎通支援事業

○萩市手話通訳者設置事業

・相談件数：1516件（派遣に関わる調整も含む）

・専任者通訳：44件

○意思疎通支援者派遣事業

・手話通訳派遣：236件（延286名）

・要約筆記派遣：19件（延74名）

○意思疎通支援者養成事業

・手話奉仕員養成講座開催：平成29年5月～2月

（第2木曜日・第4土曜日の29日間 全80時間）

受講者10名（うち修了者2名）

\*長門市（2名）からの受講生の受け入れを行いました。

○要約筆記体験講座

・平成29年8月26日（萩総合福祉センター）

受講者9名

➤ 他機関の会議等へ出席

- 萩地域相談支援従事者連絡会議 月1回
- 乳幼児発達支援連携調整会議 月1回
- 萩地区心身障害児総合療育相談会 年4回
- 萩地区心身障害児総合療育システム推進会議 年1回
- お仕事ネットワーク北浦 研修会、実行委員会 年5回
- 萩・長門地域関係機関連携協議会 年1回

➤ 職員業務研修（相談援助技術に係る研修、障がい全領域に係る専門研修）

○主な研修派遣

- ・相談支援従事者専門コース別研修（障害児支援）4名
- ・相談支援従事者専門コース別研修（地域移行・定着）1名
- ・相談支援従事者現任研修（3日間）2名
- ・相談支援従事者初任者研修（6日間）2名
- ・平成29年度 精神保健福祉関係者 基礎研修（2日間）1名
- ・平成29年度山口県障害者虐待防止・権利擁護研修  
「障害者福祉施設等設置者・管理者研修コース」（2日間）1名
- ・平成29年度 医療観察制度地域連絡会 1名
- ・発達障害児支援研修会「子どもの成長と発達障害」 1名
- ・相談援助実習指導者になるための講習会（2日間）1名
- ・平成29年度 障害児・者相談支援事業全国連絡協議会  
コーディネーター研修会（2日間）1名
- ・萩市設登録通訳者研修会（2回）1名
- ・地域生活支援事業（意思疎通支援〔聴覚障害関係〕）に係るコーディネーター研修会  
（2回）1名



## 平成 29 年度 ふたば園障害者就業・生活支援センター ほっとわーく

### 事業報告

#### ➤ 総括

センター事業開始から 9 年目となった 29 年度も昨年に続き、精神障害の方との繋がりが多くあったが、関係機関と連携して支援に関わった。中でも発達障害の方との関わりが多かった年となった。

就労支援では、安定している方については問題無いが、不安定な方についてはケース会議を行い、問題点の整理を実施したり、配慮可能な場合には配置の転換等も実施した。

また、相談支援事業所等からの相談件数もあり、関わる機関を集めて会議の開催を実施した。

連携・共有という観点から相談支援事業所や医療機関・行政機関などとの関わりを特に痛感する。

主任職場定着支援担当者が平成 27 年度に開始され、県内でも当センターが初の配置となり、職務開始となったが、去年は山口・防府圏域のセンターにも配置され、情報共有して取り組んでいる。

平成 30 年度は宇部圏域にも配置があり、今後情報の共有を図りたい。

#### ➤ 障害者に対する相談・支援

- 支援対象障害者数 182 人
- 相談支援件数 2,045 件
- 就職件数 29 件

#### ➤ 事業主に対する助言

- 支援対象事業所数 100 事業所
- 相談支援件数 821 件

職場実習および職業訓練等のあっせん

- あっせん件数 18 件

➤ 雇用安定事業

○職場定着促進のための在職者交流活動の実施

	開催日	参加人数	実施内容	実施場所
第1回	平成29年6月25日	11名	役立つ!ビジネスマナーの基本	萩市
第2回	平成29年10月1日	10名	役立つ!ビジネスマナーの基本	長門市
第3回	平成29年11月26日	12名	交通ルールを学ぼう!	益田市
第4回	平成30年2月18日	12名	29年度を振り返り、来年度の抱負を語ろう	萩市

○関係機関との連絡会議の開催

- ・障がい者就業支援関係機関連絡会 実行委員会

	開催日	参加人数	協議内容
第1回	平成29年4月14日	15名	29年度計画、連絡会案について
第2回	平成29年8月25日	14名	連絡会について
第3回	平成29年12月8日	14名	次年度計画について

- ・障がい者就業支援関係機関連絡会

	開催日	参加人数	テーマ	開催場所
	平成29年11月2日	42名	制度説明 企業における障がい者雇用の実際 《講演》	萩市民館小ホール

※連絡会議を通じて担当者との顔の見える関係作りができ、対象者支援の際に必要な情報提供や機関連携がスムーズに出来、就労だけでなく生活面での支援にも役立っている。

○事業主に対するネットワーク支援活動の実施

・障がい者おしごとネットワーク北浦 実行委員会

	開催日	参加人数	協議内容
第 1 回	平成 29 年 5 月 9 日	11 名	28 年度計画、懇話会についての打ち合わせ
第 2 回	平成 29 年 7 月 5 日	12 名	懇話会の反省、見学会の打ち合わせ
第 3 回	平成 30 年 2 月 8 日	12 名	見学会の反省、次年度の企画について

・障がい者おしごとネットワーク北浦 研修会

	開催日	参加人数	開催内容
第1回	平成 29 年 6 月 15 日	42 名	北浦地域の企業懇話会、意見交換、制度説明
第2回	平成 29 年 9 月 15 日	34 名	萩総合支援学校高等部作業学習見学、座談会

ジョブコーチ支援事業

○支援対象者数：5 名

➤ 広報・啓発活動

○季刊誌発行 年 4 回

○法人 HP（新着情報）への行事報告掲載 年 7 回

➤ 職員業務研修

○平成 29 年度 児童・障害者(児)

福祉施設等新任職員研修 1 名

○就業支援担当者研修 1 名

○障害者雇用促進セミナー 3 名

○就業支援基礎講座 1 名

○主任職場定着支援担当者交流会 1 名

○中四国ワーカー連絡会 2 名